

今日の第一朗読はコヘレトの御言葉ですが、わたしは初めてコヘレトを読んだとき、少し驚きました。なぜなら、その御言葉によると、世の中のあらゆるものがすべて意味がなくて、空しいもののように見なされるからです。そこで、「なぜ、コヘレトの御言葉は、神様が造られたすべての良いものや様々な恵みと賜物、そして、それらを得るための知恵や知識、才能、また、労苦と悩みを、これほど空しいもののように語っているのか。」ということが気になりました。結論から申しますと、そのすべての良いものは人間の欲心や貪欲のせいで、そうになってしまうのでしょう。

今日の福音で、イエス様は群衆の一人から、「わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」と頼まれました。そこで、イエス様は先ず、ご自分とは人々の裁判官や調停人ではないことをはっきりとおっしゃった後、さらに、「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。」と教えられました。イエス様はその理由として、人の命は財産によってどうすることもできないからだと言われ、それから、自分の命がどうなるかを知らず、貪欲に駆られたある金持ちの例え話をなさいました。それは、自分の畑から多くの作物を得た金持ちが、今までの財産や作物をしまっておいた小さな倉を建て直し、そこに自分のすべてのものを納めようとしてきました。そして、彼は自分自身に「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。一休みして、食べたり飲んだりして楽しめ。」と、誇らしげに言いました。しかし、神様は彼に、「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか。」と言われ、結局、彼は自分のすべての財産だけでなく、命まで失うことになります。

以上がイエス様の今日の例え話の内容ですが、この例え話の結論として、イエス様は「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこの通りだ。」と言われました。イエス様のこの結論によると、その金持ちは自分のためには富を積みましたが、神様のためには何も積まなかったことになります。その結果、彼は命まで失ってしまうことになったのでしょうか。それでは、彼が神様のために積むべきだったのは、いったい何だったのでしょうか。果たして、彼が何をしたら、自分の命を守ることができたのでしょうか。わたしは今日の福音を黙想しながら、彼に足りなかったことを、次の三つにまとめ、それについて信者の皆さんと分かち合いたいと思います。

まずは感謝の心です。今日の例え話は、「ある金持ちの畑が豊作だった。」という文章から始まります。言い換えれば、金持ちは畑から豊かな穀物を得ていたということでしょう。彼の畑にはまず、多くの僕たち、或いは、他の農夫たちの汗と労働によって種が蒔かれていたに違いありません。そして、それからは、イエス様がかつて用いた他の例え話のように、その土に授けられた神様の力と恵みによってその種は成長し、その後、収穫の時が来て、多くの人たちが働いたので、金持ちは豊かな穀物を取めることができたはずですが。しかし、彼はその多くの人たちの努力、また、蒔かれた種や畑の働き、そして、それらすべてを恵んでくださった神様に向かって、一言の感謝の祈りも捧げませんでした。むしろ、彼はその新しい穀物や今まで積んできた財産をどうするかにだけ心を奪われていました。ここで彼に欠けていたもう一つのことが見つかります。それは隣人への愛です。多くの穀物や財産を納

めるために、^{いま}今までの^{くら}倉が^{ちい}小さいと^き気づいた^{かれ}彼は、^{あた}新しくてもっと^{おお}大きな^{くら}倉を^た建てることにしました。そして、そんな^{じぶん}自分を^{ほこ}誇るかの^いように、「これから^{なんねんかん}何年間も^い生きて行くだけの^{たくわ}蓄えが^{ひとやす}できたぞ。一休みして、^た食べたり^の飲んだりして^{たの}楽しめ。」と^{ごうご}豪語するのです。もう^{かれ}彼の^め目には^{りんじん}隣人など^み見えませんでした。彼の^{かれ}計画は^{けいかく}すべて^{じぶん}自分の^{まず}ため、^{ひと}貧しい^{くる}人や^{ひと}苦しんでいる^{ちい}人の^{くら}ための^{じぶん}小さな^{ところ}倉など、^{なか}自分の^{こころ}心の中に^なさえ^たまったく^{さいご}建てよう^{ひと}ともし^{きょう}なかつた^{たと}でしょう。最後の^{ばなし}一つは、今日の^{かねも}例え話の^か金持ち^{けんそん}には^た謙遜が^{かみさま}足りず、^{じぶん}神様より^{いだい}自分が^ふ偉大な^まもののように^あ振る舞った^{こと}です。それは^{さきほど}先程^{いんよう}引用した^{かれ}彼の^{ひと}独り^{ごと}言^わからも^{かれ}分^{じぶん}かりますが、^い彼は^{じぶん}自分^{じしん}自身が^{いのち}命の^{ぬし}主^ととな^たったかの^{おも}ように^あ思い^{かみさま}上がった^おのです。そこで、^{かみさま}神様が^お「^{もの}愚かな^{こんや}者よ、^{まえ}今夜、^{いのち}お前の^と命は^と取り^あ上げられる。お前^{まえ}が^{ようい}用意した^{もの}物は、^いいった^いだれの^{もの}ものになるのか。」と^い言^いわれました。これは^{かみさま}神様ご^{じしん}自身^{しん}が^{いのち}真の^{ぬし}命の^{にんげん}主^{わす}であり、^い人間^いが^いそれを^い忘^いれたら、^いもう^いすべての^い意味^なは無^いくなる^いことを^{しめ}示^みす^{こと}を^ば御^{こと}言^ば葉^しで^しょう。

^{きょう}今日の^{だい}第二^に朗^{ろう}読^{どく}で、^し使^と徒^うパウ^えロは「^{こころ}上^とにある^{ちじょう}もの^{こころ}に^{こころ}心を^ひ留^すめ、^{ちじょう}地上^{さま}的^まなもの^{わる}とは、^{さま}様^{さま}々^まな^{わる}悪い^{おこな}行^いいと^{おこな}いろ^{おこな}んな^{おこな}貪^{どん}欲^{よく}や^{おこな}欲^{よく}望^{ぼう}で、^し使^と徒^うは^いそれを^{ぐう}偶像^{ざう}礼^{らい}拝^{はい}であり、^{ふる}古^{ひと}い^{おこな}人^{おこな}た^{おこな}ち^{おこな}の^{おこな}行^いい^だだ^だと^{だんげん}断^{だん}言^{げん}しま^しました。そして、それを^ぬ脱^すぎ^{つく}捨^ぬて、^{すがた}造^{なり}り^{あた}主^{ひと}の^い姿^みに^つ倣^つう^つ新^{さま}しい^{さま}人^{さま}を^{さま}身^{さま}に^{さま}着^{さま}け^{さま}る^{さま}よ^{さま}う^{さま}にと^す勧^すめ^すました。その^{あた}新^{ひと}しい^い人^いとは、^い言^いう^いま^いでも^いなく^いキ^いリ^いス^いト^い・^いイ^いエ^いス^い様^いで^いし^いょう。実^いに^いイ^いエ^いス^い様^いは^い二^い匹^いの^い魚^いと^い五^いつ^いの^いパン^いに^い感^い謝^いし、^い愛^いを^い持^いつ^いて^いす^いべ^いて^いを^いご^いせん^いに^いん^い あ^いた^いと^い与^いえ^いて^いく^いだ^いさ^いい^いました。また、最後の^{さいご}晩^{ばん}さん^いでは^い命^{いのち}の^いパン^いと^い救^{すく}いの^い杯^{さかずき}を^いあ^いた^いと^い与^いえ^いられ、^い十^い字^い架^い上^いでは^い御^い父^いである^い神^い様^いに^いみ^い旨^いに^い従^いつ^いて、^いご^い自^い分^いの^い命^いさ^いえ^い惜^いし^いま^いず

捧げられました。わたしたちが新しい人であるイエスを身に着けるのは、そのイエス様のみ心、すなわち、神様に感謝する心や、神様と隣人を愛する心、また、謙遜な心を学ぶことに違いありません。そして、今日もそのイエスを身に着けるためにここに集まっているのです。わたしたちがここで学んだイエス様のように生き、神様から頂いた様々な富と恵みを分かち合うならば、わたしたちは皆、神様にまことと豊かな者として認められるでしょう。このミサの中でわたしたちがそうなれるよう、お祈りいたします。